

JCHO 山梨病院 乳腺外科 臨床指標

早期乳癌診断におけるエコー下マンモトーム生検への取り組み

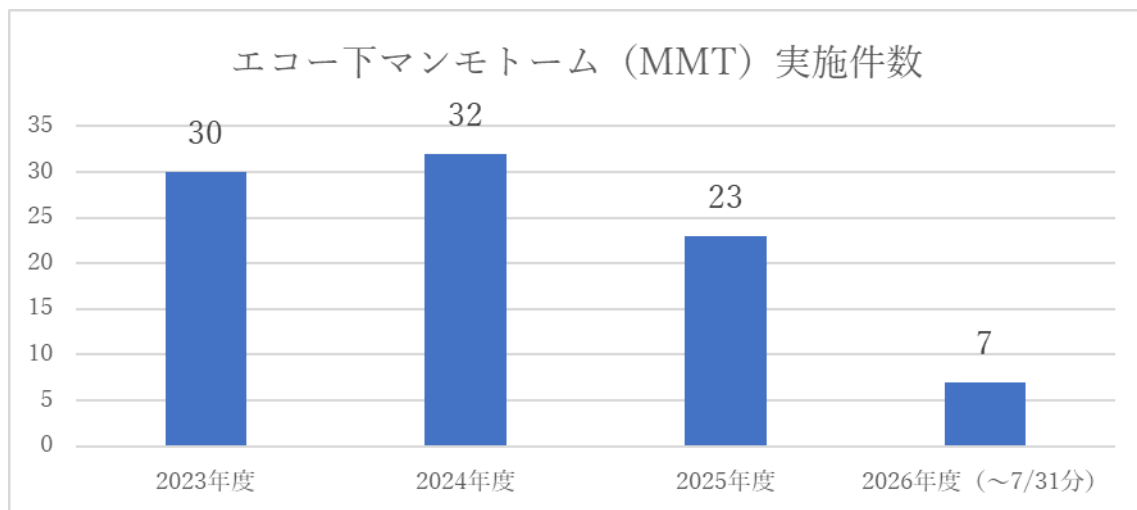
当科では、**早期乳癌の診断精度向上**を目的として、超音波で描出可能な小型低エコー病変や淡い石灰化病変のうち、穿刺吸引細胞診や針生検では確定診断が困難と考えられる症例に対し、積極的に**エコー下マンモトーム生検**を実施している。

エコー下マンモトーム生検は、リアルタイムで病変を確認しながら組織採取が可能であり、マンモグラフィ下マンモトーム生検と比較して、**低侵襲、短時間で施行可能、被曝がない**などの多くの利点を有する。当科では十分な技術習得を行った医師が検査を担当し、その特徴を生かした質の高い診断体制を構築している。

2023～2025 年度の実績では、施行例の約半数以上で乳癌が診断され、その中でも非浸潤癌（早期乳癌）が高い割合を占めており、早期発見・早期治療に大きく寄与していることが示された。

今後も適応症例を適切に選択しながら本検査を積極的に活用し、診断精度のさらなる向上と、患者負担の軽減を両立した質の高い乳癌診療の提供に努めていく。

<エコー下マンモトーム（MMT）実施件数と乳癌診断件数>



エコー下マンモトーム（MMT）による診断結果

